

引キ入レ他方日蘇關係ヲ調整シツツ場合ニ依リテハ「ソ」聯ノ印度
「イラン」方面進出ヲ助長スルコトヲ考慮ス

六 佛印ニ対シテハ現施策ヲ続行シ

七 泰ニ対シテハ対英失地恢復ヲ以テ帝國ノ施策ニ協調スル如ク誘導ス
七 當時政局ノ推移、國際情勢、敵國民心ノ動向等ニ対シ嚴密ナル監視
考察ヲ加ヘツツ戰爭終結ノ爲左記ノ如キ機會ヲ捕捉スルニ勉ム

(イ) 南方ニ対スル作戰ノ主要段階

(ロ) 支那ニ対スル作戰ノ主要段階ヲ「解政權ノ屈伏

(ハ) 歐洲戦局ノ情勢變化ノ好機時ニ英本土ノ没落、独「ソ」戦ノ終末
対印度施策ノ成功

之方爲速ニ南米諸國、瑞典、葡國、法王庁ニ対スル外交並宣傳ノ施
策ヲ強化ス

日独伊三国ハ單独不講和ヲ取極ムルト共ニ英ノ屈伏ニ際シ之ト直ニ
講和スルコトナク英ヲシテ米ヲ誘導セシムル如ク施策スルニ勉ム
対米和平促進ノ方策トシテ南洋方面ニ於ケル錫、護謨ノ供給及比島
ノ取扱ニ関シ考慮ス

南方占領地行政実施要領

十一月二十日大本營政府
連絡會議決定

オ一 方針

占領地ニ対シテハ差シ当リ軍政ヲ実施シ治安ノ恢復、重要国防資源ノ急運獲得及作戰軍ノ自活確保ニ資ス

占領地領域ノ最終的帰属並ニ将来ニ対スル処理ニ関シテハ別ニ之ヲ定ムルモノトス

オ二 要領

一、軍政実施ニ当リテハ極力残存統治機構ヲ利用スルモノトシ従来ノ組織及民族の慣行ヲ尊重ス

二、作戰ニ支障ナキ限り占領軍ハ重要国防資源ノ獲得及開発ヲ促進スヘキ措置ヲ講スルモノトス

占領地ニ於テ開発又ハ獲得シタル重要国防資源ハ之ヲ中央ノ物動計画ニ織リ込ムモノトシ作戰軍ノ現地自活ニ必要ナルモノハ右配分計画ニ基キ之ヲ現地ニ充当スルヲ原則トス

三、物資ノ対日輸送ハ陸海軍ニ於テ極力之ヲ援助シ且陸海軍ハ其ノ整備船ヲ全幅活用スルニ努ム

四 鉄道、船舶、港河、航空、通信及郵政ハ占領軍ニ於テ之ヲ管理ス
五 占領軍ハ貿易及為替管理ヲ施行シ特ニ石油、護謨、錫、「タンクス
テン」、「キナ」等ノ特殊重要資源ノ對敵流出ヲ防止ス

六 通貨ハ勅メテ從來ノ現地通貨ヲ活用流通セシムルヲ原則トシ已ムヲ
得サル場合ニアリテハ外貨標示軍票ヲ使用ス

七 國防資源取得ト占領軍ノ現地目活ノ為民生ニ及ホサルヲ得サル重
庄ハ之ヲ忍ハシノ宜撫上ノ要求ハ右目的ニ反セサル限度ニ止ムルモ
ノトス

八 米、英、蘭國人ニ對スル取扱ハ軍政実施ニ協力セシムル如ク指導ス
ルモノニ恣セサルモノハ退去其ノ他適宜ノ措置ヲ講ス

輻輳國人ノ現存權益ハ之ヲ尊重スルモ爾後ノ擴張ハ勅メテ制限ス
華僑ニ對シテハ蔣政權ヨリ離反シ我力施策ニ協力同調セシムルモノ
トス

居住土民ニ對シテハ皇軍ニ對スル信尚觀念ヲ助長セシムル如ク指導
シ其ノ獨立運動ハ速早ニ誘発セシムルコトヲ避クルモノトス

九 作戰開始後新ニ進出スヘキ邦人ハ事前ニ其ノ素質ヲ厳選スルモ嘗テ

是等ノ地方ニ存住セシ煽動者ノ再渡航ニ関シテハ優先的ニ考慮ス

二〇 軍政実施ニ関係シ措置スヘキ事項左ノ如シ

イ 現地軍政ニ関スル重要事項ハ大本營政府連絡會議ノ議ヲ経テ之ヲ
決定ス

中央ノ決定事項ハ之ヲ陸海軍ヨリ夫々現地軍ニ指示スルモノトス
凡 資源ノ取得及開發ニ関スル企画及統制ハ差当リ企画院ヲ中心トス
ル中央ノ機關ニ於テ之ヲ行フモノトス
右決定事項ノ実行ハ(四)項ニ遇ルモノトス

ハ 佛印及泰ニ對シテハ既定方針ニ拠リ施策シ軍政ヲ施行セス状況激
變セル場合ノ処置ハ別ニ定ム

備 考

一 占領地ニ對スル帝國施策ノ進歩ニ伴ヒ軍政運営機構ハ逐次之ヲ
政府ノ設置スヘキ新機構ニ統合調整又ハ移管セラレルモノトス